



福島の過去と未来

8月大熊E班

佐藤日向, 下山哲史, 関怜菜, 田村真唯, 西村修平

目次

1. 交流会
2. 街歩き
3. 中間貯蔵施設、原子炉見学
4. これからどうするのか





交流

ケース① 大熊町の行政区の区長

除染作業を進めるにあたり、帰還希望のアンケートが実施された

→除染作業の早期終了を願い、実際には帰還を希望しない人にも帰還希望で出すようにお願いして回っていた

→アンケートの結果次第で除染が遅くなるという懸念

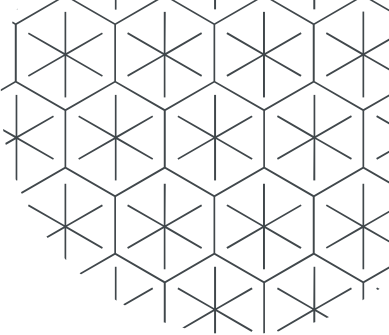
ケース② 事故当時中学生であった福島大の鈴木先生

部外者の心情:「かわいそう」

⇔当事者の心情:事故を起こしてしまった罪悪感

→当事者に責任を押し付けている

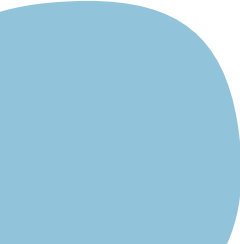
→社会全体で復興のサポートをするべき



ケース③ 事故当時と現在の環境省職員

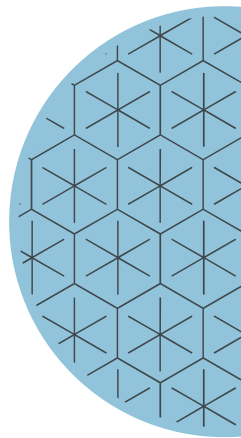
中間貯蔵施設の除染土は2045年までに県外で最終処分を行う予定
その一方で、受け入れ先のめどは立っていない

→除染土への理解が進んでいない現状



まとめ

- 被災者とそれ以外の人で事故に対する意識が大きく違う
→被災者の考えを学ぶ必要性
- 特定の人に責任を押し付けている
→社会全体でフォローすべき



The background features several abstract, organic shapes in shades of blue and purple. A black line drawing of a plant with long, slender leaves is positioned at the top center. The main title is centered within a light blue, irregular shape.

町内視察

大熊インキュベーションセンター

- ・福島に拠点があるだけで補助金をもらえる制度がある
 - ➡数社: 籍を置くだけで一度も利用したことがない

★「補助金の給付」という支援策の限界





大野駅までの道すがら

新築に見える空き家が立ち並ぶ通り
一帯は除染済み/小綺麗な家々
⇔閑散とした住宅街

★住民に帰ってきてもらうことの難しさ

大野駅周辺



- ・「都会的で綺麗」
- ・駅から少し離れる：放置された土地/家屋
→「ハリボテ感」
⇔震災を想起させ、
震災を考える機会を与える

大野駅周辺



★解釈の幅＝大熊町の「あるべき姿」という前提の相違

前者：町全体が均一に整備

後者：痕跡の維持、教育的役割

わかったこと:



★大熊町の現状:制度の悪用、依然残る震災の痕跡

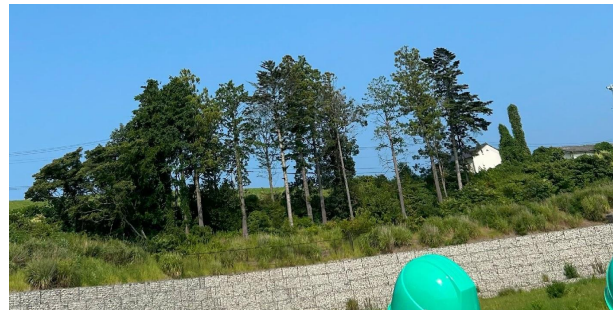
★前提の相違➡痕跡の多様な意味付け

The background features several abstract, organic shapes in light blue, light purple, and medium purple. A black line drawing of a plant with long, slender leaves is positioned at the top center. The main title is centered within a light blue shape.

中間貯蔵施設

除染済みの土壤

- ・ 除染済み
- ・ 線量 0.237



The background features several abstract, organic shapes in shades of blue, purple, and grey. A black line drawing of a plant with long, slender leaves is positioned at the top center, partially overlapping a light blue shape. The title text is centered within this light blue shape.

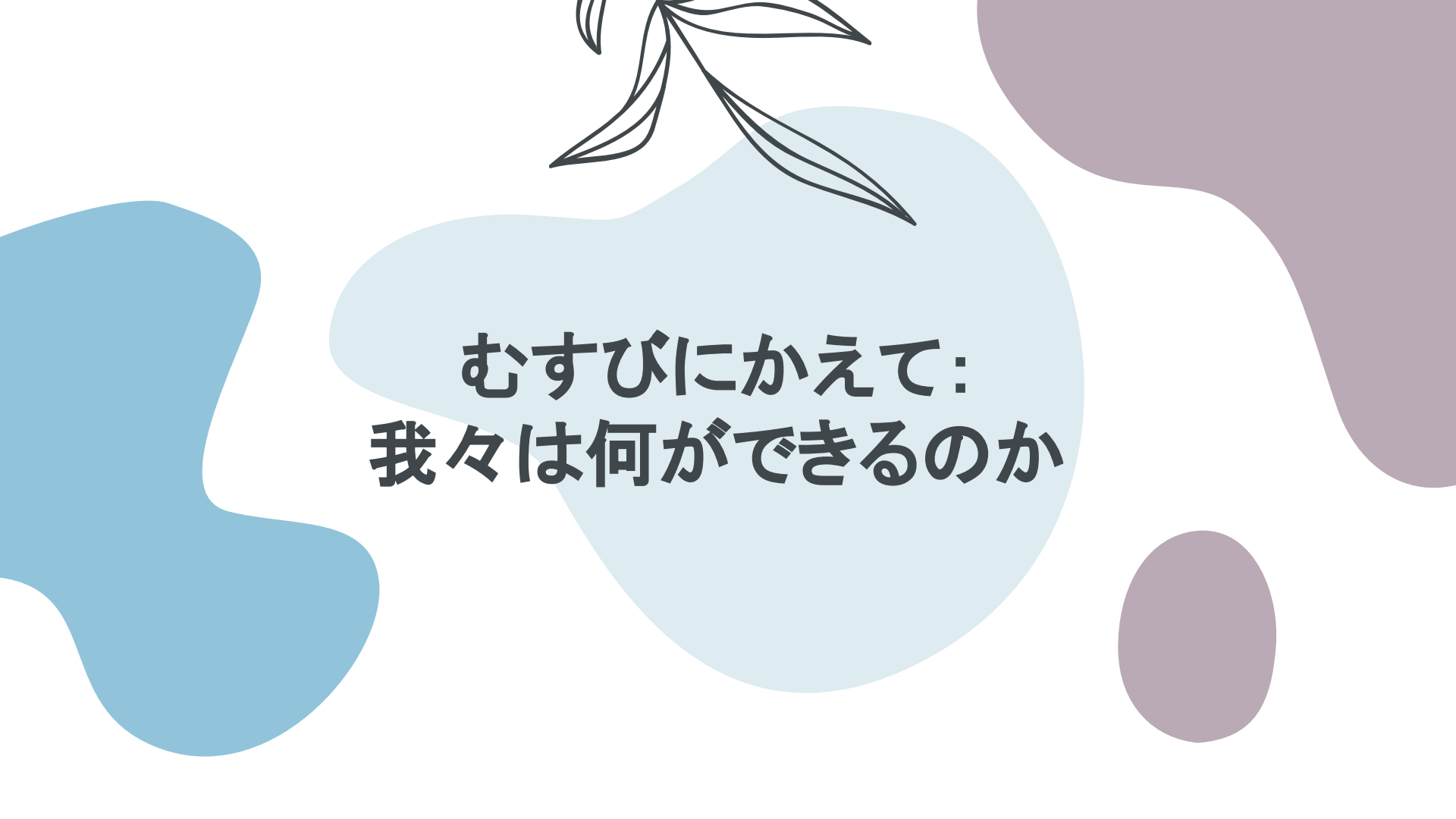
原子炉見学

現在の状況

- ・ 1-4号機は活動停止中
- ・ 地面がコンクリートで覆われている
...地下水に放射線が含まれるのを防ぐため。
- ・ 一部の場所が震災当時のまま残されている

知ったこと

- ・ 除染作業は続いている
- ・ 除染した後のことが未定

The background features several abstract, organic shapes in shades of blue and purple. A black line drawing of a leafy branch is positioned at the top center. The text is centered within a light blue, irregular shape.

**むすびにかえて：
我々は何ができるのか**

短期・実践

自分が

福島に還元される経済活動

・旅行 ・福島産の物品の購入

他者へ

福島への関心を喚起

・本授業の紹介 ・地酒をおすすめする！



長期・思考

個別的

福島について学び/考える

普遍的

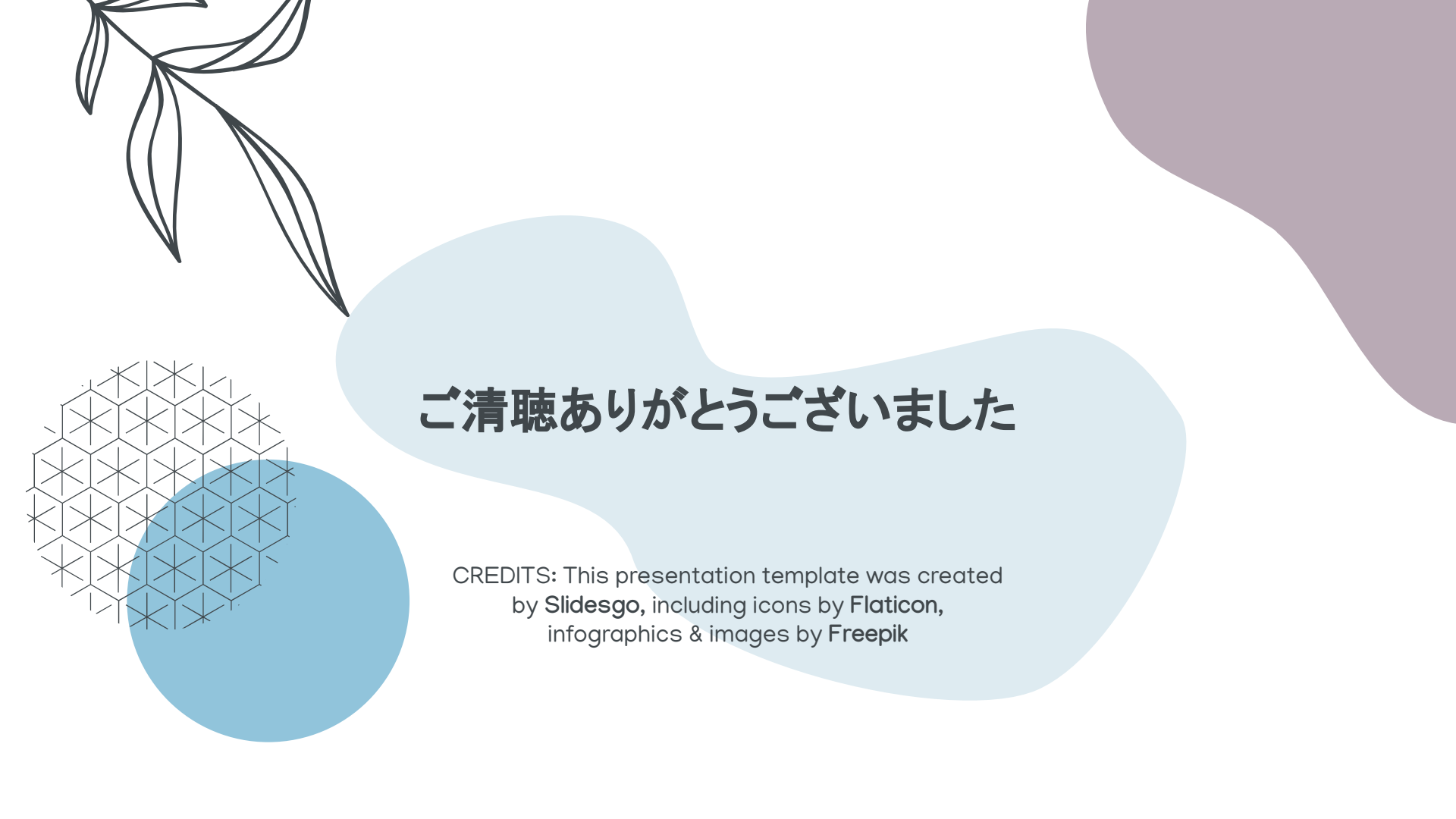
社会問題への無関心

Ex) 中間貯蔵施設の汚染土処理

→ 公共的な意識の欠落

◎ 解決策: (公)教育?

■ 不断に向き合うべき問い



ご清聴ありがとうございました

CREDITS: This presentation template was created
by **Slidesgo**, including icons by **Flaticon**,
infographics & images by **Freepik**

参考文献

- NHK. (2025). 「除染土再生利用“政府が率先”基本方針 理解醸成には課題」『NHK ONE』
<https://news.web.nhk/newsweb/na/na-k10014817691000>(最終閲覧2025年10月3日)
- 安彦, 一恵・谷本, 光男 (編). (2004). 公共性の哲学を学ぶ人のために. 世界思想社.